

[illegible]

九日

[illegible]

以學爲上之要

[illegible]

[illegible]

何事を以て此の世に生れしや
此の世に生れしや此の世に生れしや

汝其

月台

[illegible]

九月廿四

[illegible]

[illegible]

九月

[illegible]

四十日の所長
而了日所長

六月十八日
 六月十八日

方以時

[illegible][illegible]

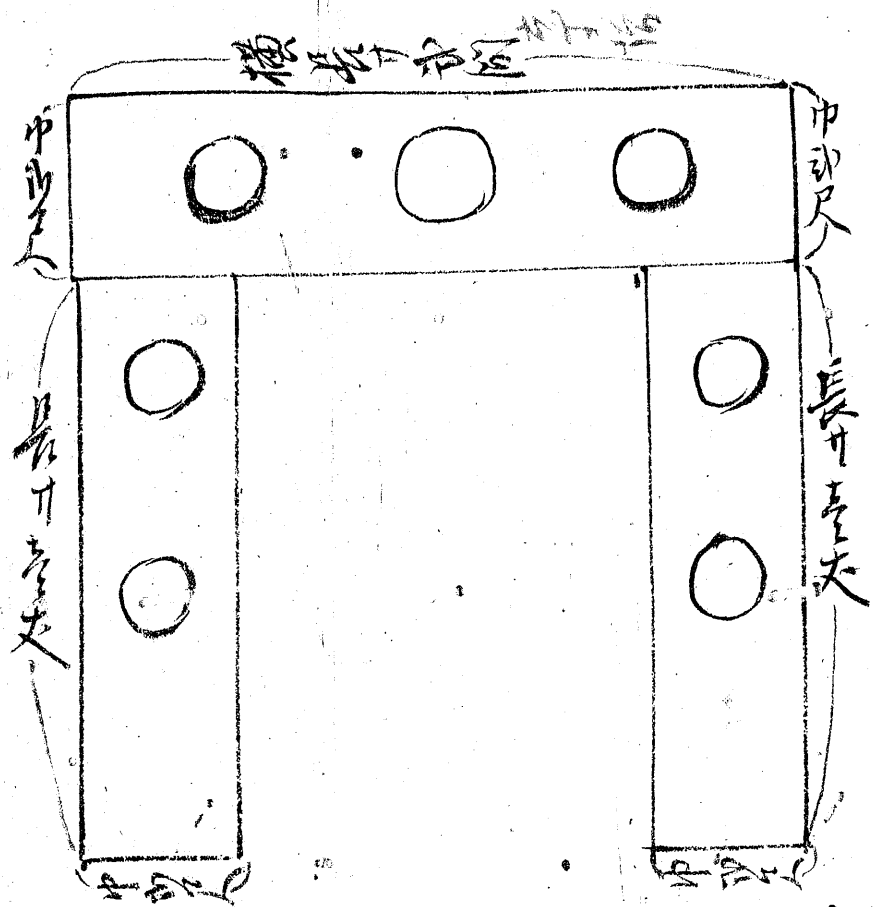
天保十二年五月廿二日
 下谷肥土端神原氏奇附之

御水引寸法

御役方より指渡す

曲尺より寸法を

五尺目

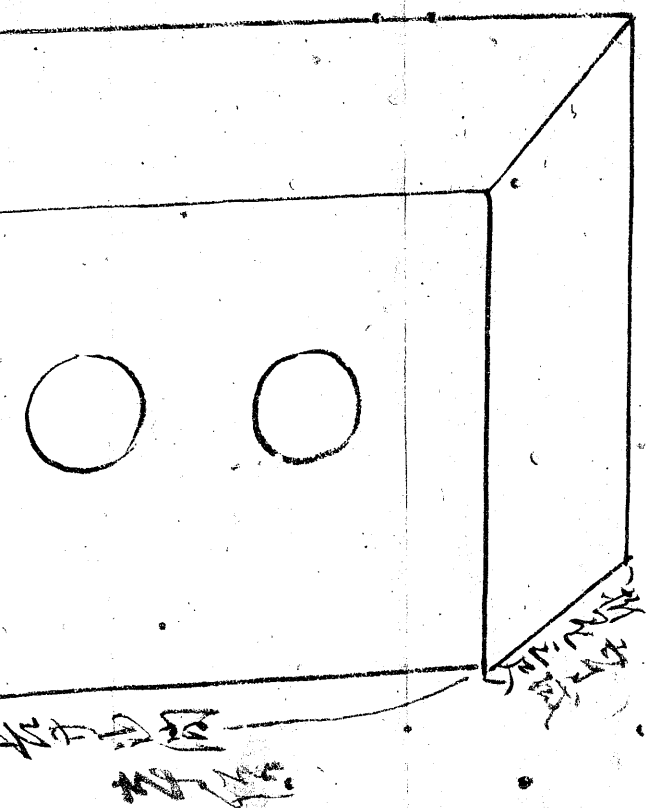


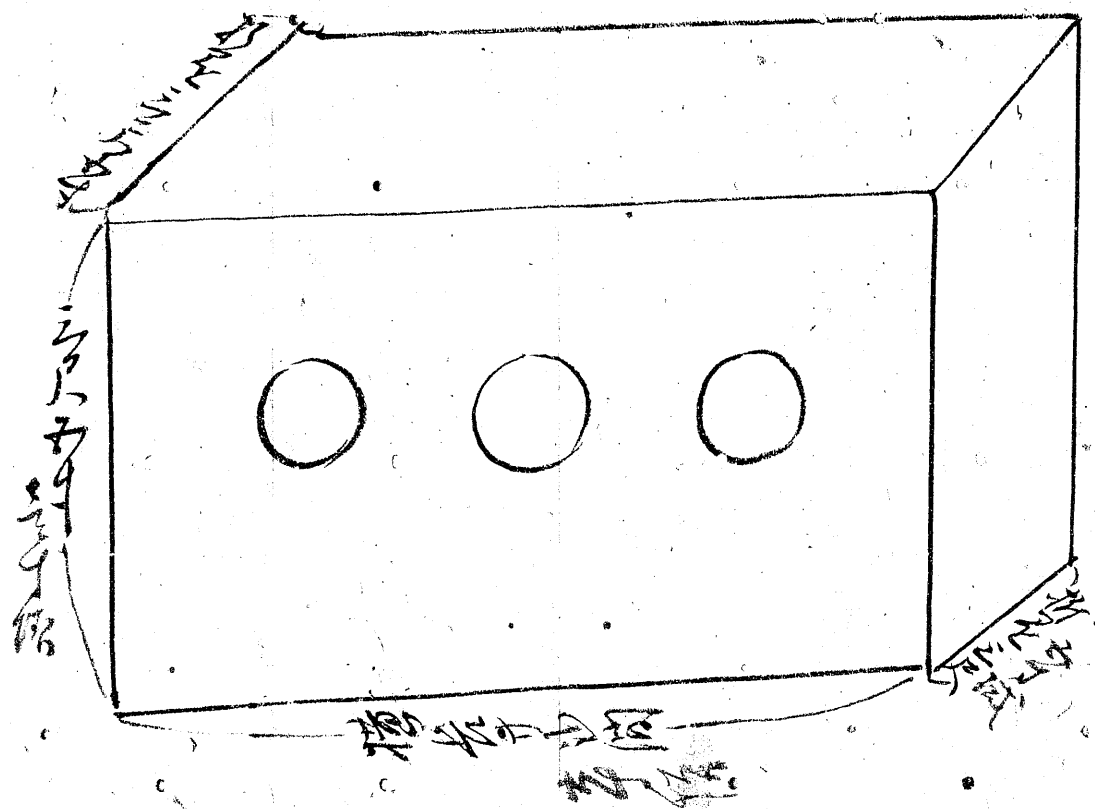
檀掛寸法

御役方より指渡す

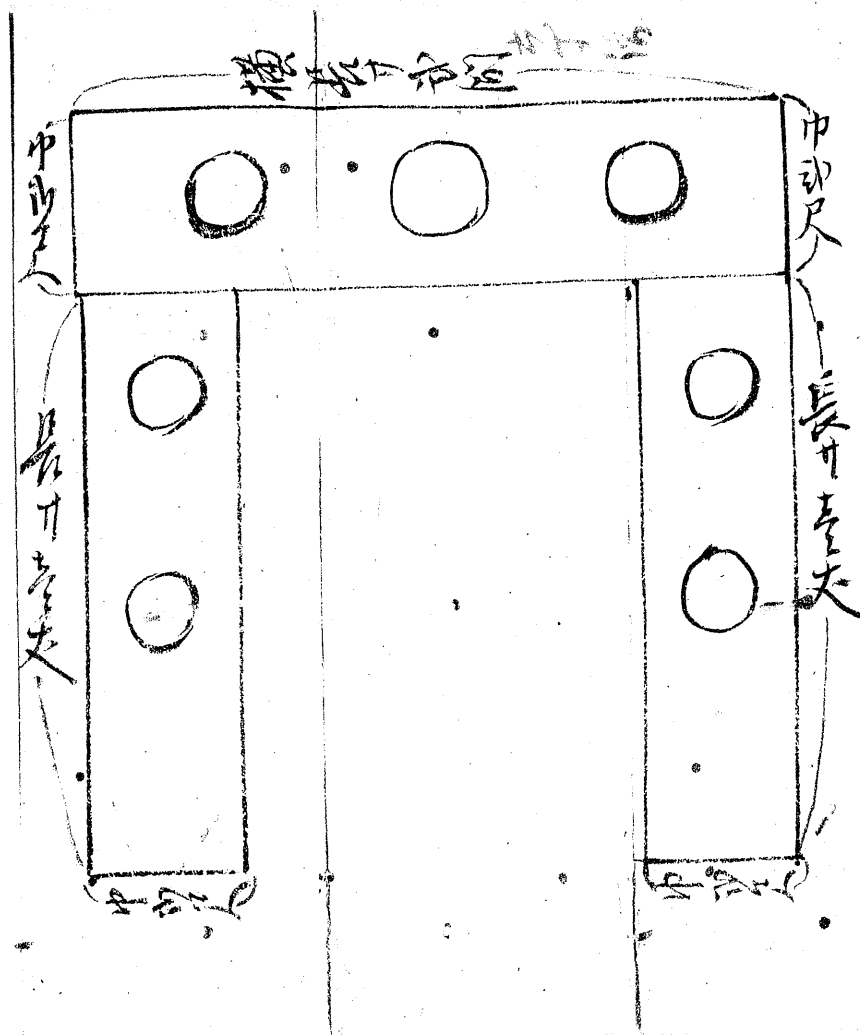
曲尺より寸法を

五尺目





檀掛寸法
御紋をきり指腹に
曲尺をもちます
二枚のり



御紋をきり指腹に
曲尺をもちます
五枚目

云ノ百歳を果す 幸ふまゝに
或る事あるを

はるかにあまのこころに
のほけを感ず

十月

一 長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所
二 長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所
三 長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所

少くも
細い線 長く及ぶ ありとあり

想ひ致す所は地味は

地味
の所 長く及ぶ ありとあり

長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所
長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所
長安の地味はうすうすの土に事あるが所を
定めておきしむる所

文久二年戊午九月三日

神原徳宅

井伊氏 寄附

五原十三事

五原十三事五事

五原十三事

五原十三事

五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事
五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

五原十三事五事

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

けりあまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

あまのうきをよしののちけりおのころのうき

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

左様西の方へ海は浅く、右の方へは深くなる
山は、右の方へは、

[illegible]

何處不有
此種人等
其心之毒
比蛇蝎尤
甚

之係連為之
之係連為之

十月

[illegible]

1

[illegible]

しん
あまのつねのちやうど

しん
北のあまのちやうど
あまのちやうど

しん
あまのつねのちやうど
あまのつねのちやうど

しん
あまのつねのちやうど
あまのつねのちやうど

しん
あまのつねのちやうど
あまのつねのちやうど

しん
あまのつねのちやうど
あまのつねのちやうど

しん
あまのつねのちやうど
あまのつねのちやうど

紅毛の船
大船一隻、小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

一日、
船中、
海を航行中、
大船一隻、
小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

乃様
大船一隻、
小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

大船一隻、
小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

大船一隻、
小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

大船一隻、
小舟二隻、
水手約五十人、
船中、
海を航行中、

100

五

中今更々
多々何々

一

張氏

乃所經之

174

原上草

ねまのふね

わあゆめ

卷之五

五言古詩

中
 山
 王
 王

何如

可

陽

杜牧之

一 秋の暮るるに 原の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり

但 此の如く

一日 秋の暮るる

一 秋の暮るるに 原の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり

一 秋の暮るるに 原の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり

一日 秋の暮るる

一 秋の暮るるに 原の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり
其の草花も 色を失ひて 寂しき光景なり